

おらほの

晩生種ふじを見据えた生産計画

リンゴ作りの方向性

消費地から厚い信頼を得ている『飛馬ブランド』。

地域でリンゴ作りを続けていくために、私たちはどこを向いて進んでいくのか。

この特集で、みなさまと認識を共有していきたい。

リンゴ作りの歴史を見ると、消費者嗜好の移り変わりや早期出荷による食味や価格の低迷、天候の影響などにより、現在まで柔軟な対応を求められてきている。私たち産地は、その時代の変化に合わせて品種更新をしながら、今日まで産地を維持してきた。

隔年で価格が上下しており、また有袋ふじと飛馬ふじは高水準で推移していることが分かる。しかし、有袋ふじは約4年周期で大きな波があるのに対し、飛馬ふじは、ここ10年ほぼ横這いで安定した価格で精算されている。

努めている。『飛馬ふじ』がそのブランドの牽引役であり、先にも述べたように、高品質安定出荷が継続されている。消費地での認知度や市場からの信頼が厚い『飛馬ブランド』があるからこそ、私たち産地のリンゴは支持され続けているのである。

高価格安定精算のふじとは

生産報告会を終えて、まず注目したいのは有袋ふじの価格である。一箱あたりの精算金額をサンふじと比較すると、令和4年産は3,143円、令和3年産は2,095円も価格差が生じている。そこで過去12年間のふじについて表1に示した。全体の精算が緩やかに上昇していることが読み取れる。

個別で見ると、サンふじは

地域ブランドの確立

青森リンゴは、全国のリンゴ生産量の過半を占め、周年供給ができる唯一のブランドであり、そのブランドを傷つけないよう品質管理には十分対応する必要がある。

当JAでも光センサーによる選果機の導入やスマートフレッシュなどの貯蔵技術を活かし、均質で品質保証できるリンゴを安定的に供給することにより、消費者に信頼されるブランドの確立と維持に

全品種ベストな精算を目指して

このように信頼と需要のある晩生種ふじだが、県産リンゴの周年販売を堅持するため、早生、中生、また他の晩生種についても、計画的にリレー出荷をしていきたい。

改植や新植の際には、国の改植事業や、果樹産地強化プロジェクトチームで決定した表2の品種を中心に検討していただきたい。

表1 ふじ3種における1箱あたりの精算金額の安定性推移 (単位:円)

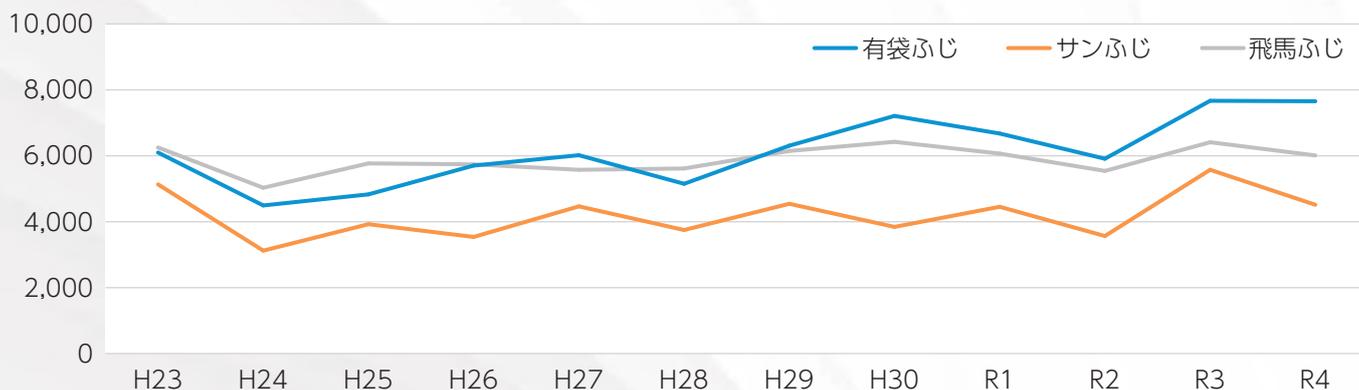


表2

	果樹産地強化プロジェクトチーム		国の改植事業対象品種
	基幹品種	補助品種	
極早生 早生種	恋空 サンつがる きおう スイートメロディ		恋空 ひらかつがる きおう スイートメロディ 紅はつみ
中生種	華宝 シナノスイート ジョナゴールド (サンジョナ含む) トキ	むつ 世界一 おいらせ 千雪 紅玉 ルビースイート ローズパール	華宝 シナノスイート ジョナゴールド (サンジョナ含む) トキ 千雪 紅玉
晩生種	ふじ (サンふじ含む) 王林 シナノゴールド	金星	ふじ (宮美、コスモ、平成美人、紅虎、 うまじろう、飛馬ホワイト) 王林 シナノゴールド 青林

左: 組合員代表者で構成されている『果樹産地強化プロジェクトチーム』で生産から販売まで一体となった栽培を目指し決定した品種一覧。

右: 国の改植事業の対象品種一覧。

品種の導入にあたって

品種構成は、農業経営の安定や気象災害等の危険分散を図り、多様な消費者ニーズに対応できることを基本としたい。新たな品種の購入にあたっては、品種の特性や需要の動向などを十分把握し、以下の留意点に配慮して選んでいた

- ・ 作業ピークの分散を図り、また、気象災害を回避するために単一品種に偏らないようにする。
- ・ 販売を考慮して、地域に適合した品種を主体に構成する。
- ・ 着色系統を導入する場合は、食味のよいものを選択する。
- ・ 混植を基本とし、交雑和合性の

- ・ よい品種を選ぶ。
- ・ 早生、中生、晩生品種は労力を考慮した割合とし、中心となる品種数は4〜5品種としたい。
- ・ 家族労働で十分間に合う場合には、労働集約的な品種を2〜3品種に限定してもよいのではないだろうか。

経営に合った園地計画

令和4年産の精算を終えて、有袋ふじだけでなく、有袋ジョナも堅調に推移したことが分かった。ただ摘果時期と重なる袋かけ作業や、タイミングが重要な除袋作業には、補助労働力の確保や、人件費と販売額のバランス、作業スケジュールに合った畑作りなど、様々な問題が絡んでいる。どのように計画して園地を作り、収入を得ていくか。改植を検討される際には、今回ご紹介した品種を参考にしていただければ幸いです。

組合員の所得向上と産地維持を目指し、当JAでは引き続きみなさまのサポートに励みます。

参考資料: 青森県りんご協会 りんご生産指導要項2022-2023